

1 目標

- ◇ 学校で学習する「水泳」の意味を理解することができる。
- ◇ 水の特性や水泳のきまり（心得）を知ること、来年度以降の水泳学習に向けて、学習意欲を高める。

2 学習過程（教室にて1～2単位時間での授業を想定しています）

- 児童の実態や学校の取組や施設（自校のプール施設の写真などを見せながら授業することをおすすめします）に応じて、内容は適宜、修正や変更をしてください。
- 「水泳運動」を取り扱わない場合の代替資料として、また、水泳学習開始前の導入としてご活用ください。
- 「わたしたちの体育」がある場合は、書きこんだり、様々な運動を調べたりして補助教材としてご活用ください。

学習活動	教師の支援や活動のねらい
1. これまでの水泳学習をふり返り、本時の学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時への関心を高めるために、前学年までの水泳学習についてふり返り、どんなことができるようになったのか、またどんなことにこまっていたのかなど、自由に思い出させる。 ● 本時は、水泳運動についてクラスで「考える」時間だということと、本時の流れについて確認する。
2. 水泳が上達するために大切なことはなにか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 水泳が上手くなるためには何が大切だと思うか、自由に出させたあと、教師から「水の特性」や「水泳のきまり（心得）」を理解することが大切であるということを伝える。
3. 学校で水泳を学習する意味について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去に水に関する事故や災害が起こっていることや将来、南海トラフ巨大地震などの災害が起こる可能性があることを伝え、児童の身の回りにある水に関する多くの危険から自分の命を守るようにするため、学校で水泳を学習するということを伝える。
4. 「泳ぐ」という意味について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● おそらく、児童がもっている「泳ぐ」というイメージは、クロールなどの泳法が強いと思われる。ここでは、泳法ではなく「浮く」「進む」「呼吸」ができることが「泳ぐ」ことだと、児童がもつ「泳ぐ」に対するイメージを少し変える（少しハードルを下げるような感覚）ことをねらいとしている。
5. 「水中」と「陸上」での違いについて、これまでの経験をもとに考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学習経験などをもとに、「水中」と「陸上」は、全く異なるということに気付かせる。また、それぞれの特性には名前があるということも知らせるとよい。（「へえ～！知らなかった～。」くらいで…） ● そうした特性を、家でも体験できるということを知らせることで、学校での学びを家庭にもつなげる。（「抵抗」や「浮力」）
6. これまでの学習経験をふり返りながら「水泳のきまり（心得）」を確かめる。 ※学習指導要領解説（P.168～169）に『これらの心得については、必ず取り上げること。』と示されている	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学年（低～高学年）における「水泳のきまり（心得）」について、これまでの学習経験をふり返りながら、確認する。 ● 様々なきまりがある意味に気付かせるため、「わたしたちの体育」を採択している学校は本書の中に書かれているきまりと比較させながら、なぜそのようなきまりがあるのかについて問いかける。 ● ベン図を用いて「学校生活（主に校内）に関するきまり」と「水泳のきまり」の共通点などを考えることで、「きまりを守ること」の価値に気付かせることもできる。
7. 水難事故にあった際、どのような行動をすればいいのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校水泳で重要とされている部分であるため、全ての学年に入れている。（代表的な「UITEMATE（ういてまて）」を紹介）もしも着衣のまま落水した場合に、どのような行動をとるか問いかけたあと、自分の命を守るための正しい行動について、丁寧に確認をする。 ● 実際に長袖等を着たまま袖の部分を水にぬらして、服が体にまとわりつく様子を見せ「もしもこれが全身だったら？」と問いかけると、着衣のまま落水した際の身動きのとりにくさについて想像しやすくなる。（可能であれば…）
8. 五輪金メダリストの作文から、「学校水泳」の意味について考え、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 『学校のプールは自分の身を守るためである』という言葉などから、児童と「学校水泳」の意味について考え、来年度以降からの水泳学習にのぞむ姿勢を確認したり、ここまでの学習をふり返ったりする。 ● 「わたしたちの体育」のふり返り欄に本時の学習のふり返りを記述させる。→評「主体的に学習に取り組む態度」のひとつとして評価できるかも？
9. 資料映像を用いて、水泳学習のイメージを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間があれば URL の資料映像を視聴して、児童と水泳学習のイメージを共有する。

※学年によって、スライド番号が異なる場合があります。授業前に必ずご確認ください。

※お気づきの点やご質問等は、作成者：三木（十河小）までお願いします。